

Ⅲ．刊行報告書抄録

第227集 大畑遺跡

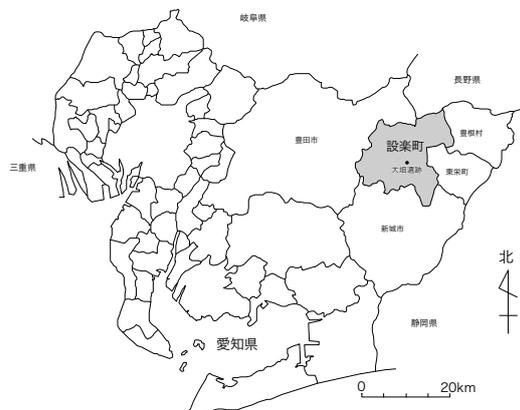
大畑遺跡は周囲と隔てられた地形の中にある。北側は万瀬遺跡方面から細い尾根で連続するものの、東と南は境川によって、西は戸神川によって急峻な崖が形成されている。東西方向からの登攀は困難である。南側には葛折りの道があり川向東貝津遺跡付近に達する。北側へは細い尾根状地形の上を経て万瀬遺跡の南東付近に達する。遺跡内の地形は丘陵と谷状地形があり、縄文時代前期～中期の竪穴建物は、東西の丘陵部と谷状地形の始点、すなわち谷頭部で検出された。

各地形内の竪穴建物の数と時期は、西側丘陵部には縄文時代前期が2棟(310SI・440SI)、縄文時代中期が3棟(300SI・360SI・362SI)、詳細不明3棟(395SX・490SI・370SX)。東側丘陵部には、縄文時代中期が1棟(065SI)、谷頭部には、縄文時代前期が2～3棟、縄文時代中期が5～6棟(内1棟は重複関係から前期か中期のどちらかに属す)検出されている。

大畑遺跡で検出された特筆すべき遺構としては、縄文時代中期の竪穴建物065SI内の石囲炉187SLの北側に付属する副炉228SLがある。2017年度の調査実施時点において設楽ダム関連の調査で初の副炉検出例であった。187SLの掘方の規模が一辺約1mを測るのに対して、228SLの掘方は一辺約0.2mの規模である。228SLの内部には顕著な焼土や炭化物は検出されていない。

本調査以降は、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、下延坂遺跡でも副炉の付属する石囲炉が検出されている。マサノ沢遺跡では炉に付属する土坑で副炉の石が抜き取られた可能性も指摘されている。近隣の遺跡では豊田市ヒロノ遺跡、土岐市妻木平遺跡に類例がある。その他、長野県、山梨県には多数の類例があり、本遺跡の副炉についてもこれらの地域との関連が想定されている。

(鈴木恵介)



大畑遺跡の位置



竪穴建物065SI内の石囲炉187SLと付属する副炉227SL



大畑遺跡の地形と遺構の分布

報告書抄録

| ふりがな | おおはたいせき | | | | | | | |
|-----------------|--|-----------------------|--|------------------|--------------------|---|---------------------|------|
| 書名 | 大畑遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第227集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 樋上 昇・鈴木 恵介・田中良・伊藤 茂・加藤 和浩・佐藤 正教・廣田 正史・山形 秀樹 Zaur Lomtaticze・小林 克也・竹原弘展・バンダリ スダルジャン | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2025 年 3 月 31 日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| おおはたいせき 大畑遺跡 | きたしたらくんしたらちょう 北設楽郡設楽町 かわむきあぎおおはた・ひがしがいつ 川向字大畑・東貝津 | 23561 | 700164 | 35度 6分 33秒 | 137度 33分 58秒 | 2017.10 ～ 2018.1 2022.10 ～ 2022.12 | 13,950 2,080 | 設楽ダム |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 大畑遺跡 | 集落 | 縄文時代前期 ～ 縄文時代中期 | 竪穴建物 13 棟 竪穴状遺構 6 棟、炉跡 副炉、陥し穴 10 基 | 縄文土器、弥生土器、石器 | | 縄文時代前期の竪 穴建物 縄文時代中期の竪 穴建物跡内で副炉 を伴う石囲炉 | | |
| 文書番号 | 発掘届出 (29 埋セ第 2 号・2020.4.4 4 埋セ第 3 号・2022.4.11) 通知 (29 教生第 220 号・2017.4.17 4 文芸第 663-1 号・2022.5.13) 終了届・保管証・発見届 (30 埋セ第 126 号・2018.2.14 4 埋セ第 110 号・2022.12.26) 鑑定結果通知 (29 教生第 3697 号・2018.2.26 4 文芸 2281・2023.2.10) | | | | | | | |
| 要約 | 境川右岸丘陵上に立地する縄文時代前期～後期の集落跡。竪穴建物は縄文時代前期 4 棟、縄文時代中期 9 棟、縄文時代後期～晩期は竪穴建物そのものは検出されず、遺物が検出された。縄文時代中期後半の副炉は特徴的な遺構である。この副炉は調査当初設楽ダム関連遺跡の中で初の検出例であった。 東西および南側が河川によって削られた崖で周囲と隔絶した独立性の高い地形であり、土砂の流入等の影響がない。その一方で当遺跡からは雨水等によって土砂の流出が継続しているため、丘陵上の遺構の一部は残存状況が良好ではなかった。 | | | | | | | |

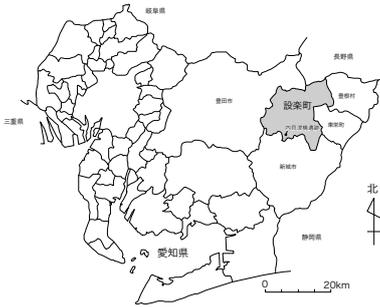
報告書抄録

| ふりがな | おおさきいせき | | | | | | | |
|-----------------|---|---------------------------------------|---|---|--------------------|--|-------------|------|
| 書名 | 大崎遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第228集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 鈴木正貴、川添和暁、蔭山誠一、社本有弥、永井邦仁、森将志、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ (伊藤茂、加藤和浩、廣田正史、佐藤正教、山形秀樹、Zaur Lomtadidze、小林克也、中村賢太郎)、竹原弘展、 バンドリ・スダルジャン | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2025年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| おおさきいせき 大崎遺跡 | きたしたらくんしたらちょう 北設楽郡設楽町 たぐち 田口 | 23561 | 770195 | 35度 06分 22秒 | 137度 33分 50秒 | 2021.08.30 ～ 2022.02.04 2022.05.31 ～ 2022.10.21 | 11,085 | 設楽ダム |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 大崎遺跡 | 集落 | 縄文時代 弥生時代 平安時代 ～戦国期 江戸時代～ | 竪穴建物、土坑など 竪穴建物、土坑など 水田関連遺構、柵列など 集石遺構、炭焼窯 | 縄文土器、石器、石製品など 縄文土器など 灰釉陶器など 陶磁器など 陶磁器など | | 山間部の小区画 水田関連遺構 | | |
| 文書番号 | 発掘届出 (3埋セ第36-1号 2021.5.28) (4埋セ第7号・2022.4.8) 通知 (3文芸第786-2号 2021.6.3) (4文芸第663-4号 2022.5.13) 終了届・保管証・発見届 (3埋セ第88号 2022.2.10) (4埋セ第88号 2022.10.26) 鑑定結果通知 (3文芸第2636号 2022.3.24) (4文芸第1757-1号 2022.11.7) | | | | | | | |
| 要約 | 本遺跡は、境川左岸に形成された段丘面に立地する遺跡で、調査の結果、縄文時代から江戸時代までの遺構と遺物が確認された。特に、縄文時代中期末から弥生時代中期までの竪穴建物30棟などの遺構のほか、縄文時代早期の遺物も出土した。また、平安時代末から戦国時代にかけての水田関連遺構は、山間部の土地開発の歴史を知る上で貴重な成果といえる。 | | | | | | | |

第229集 内貝津橋遺跡

内貝津橋遺跡は豊川の支流である当貝津川の左岸河岸段丘上に位置する。遺跡の西側では、北から流れてきた栗島川が当貝津川と合流する。当遺跡の北側に位置し、「北設楽郡史」等に記載があり、古くから知られている折立遺跡は、詳細な範囲は示されていないが、当遺跡よりも上位の丘陵斜面に立地する。

調査は北西側のA区、南東側のB区に分割して行い、A区では遺構が少数であったが、B区では多数の土坑、溝、柱穴が検出された。掘立柱建物跡092SBは内部で鍛冶作業を行っており、内部の土坑025SKは多数の鍛造剥片や粒状滓を含んでいた。092SBは柱間約3mの1×1間の小規模な建物であり、鍛冶作業の規模もこれに応じた小規模なものであったと想定される。025SKや092SBの柱穴からは0-53窯式期の灰釉陶器が出土し、092SBの年代はこれに基づいた平安時代中期以降と考えられる。(鈴木恵介)

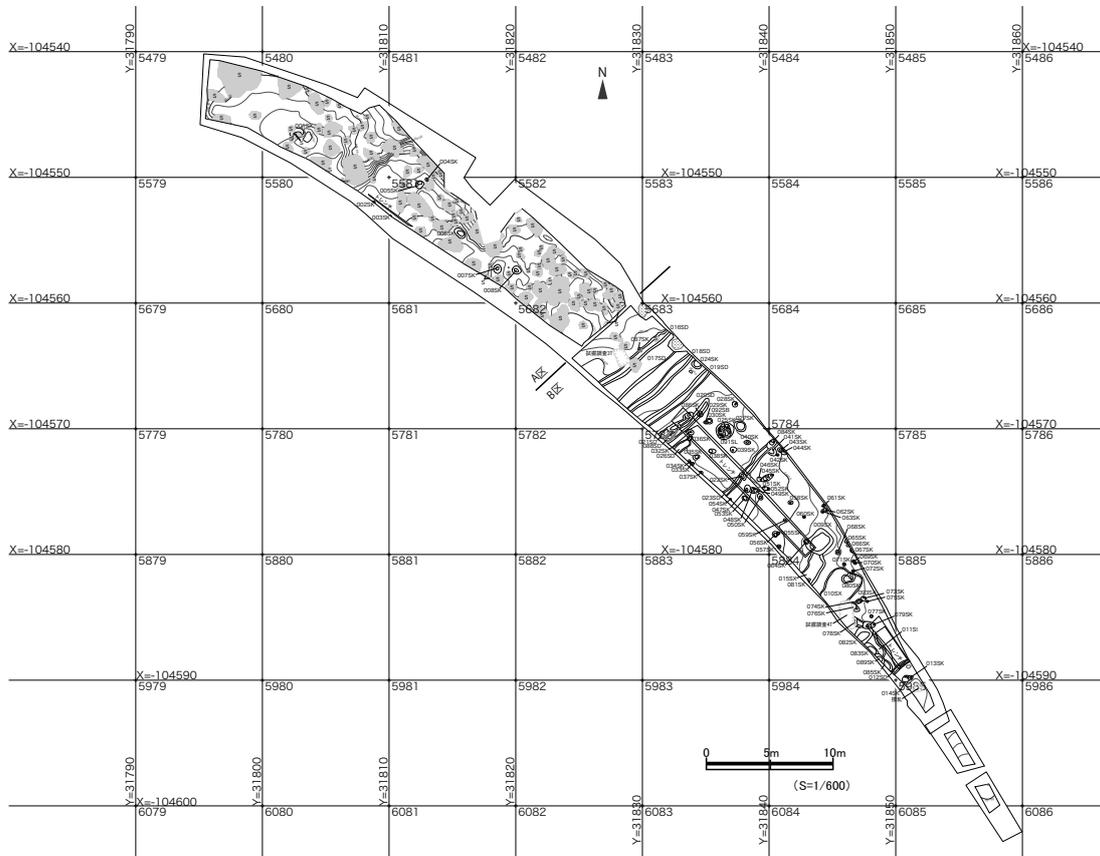


第1図 設楽市の位置図



内貝津橋遺跡の位置

掘立柱建物跡092SBと内部の土坑025SK(1:600)



内貝津橋遺跡調査区全体図(1:600)

報告書抄録

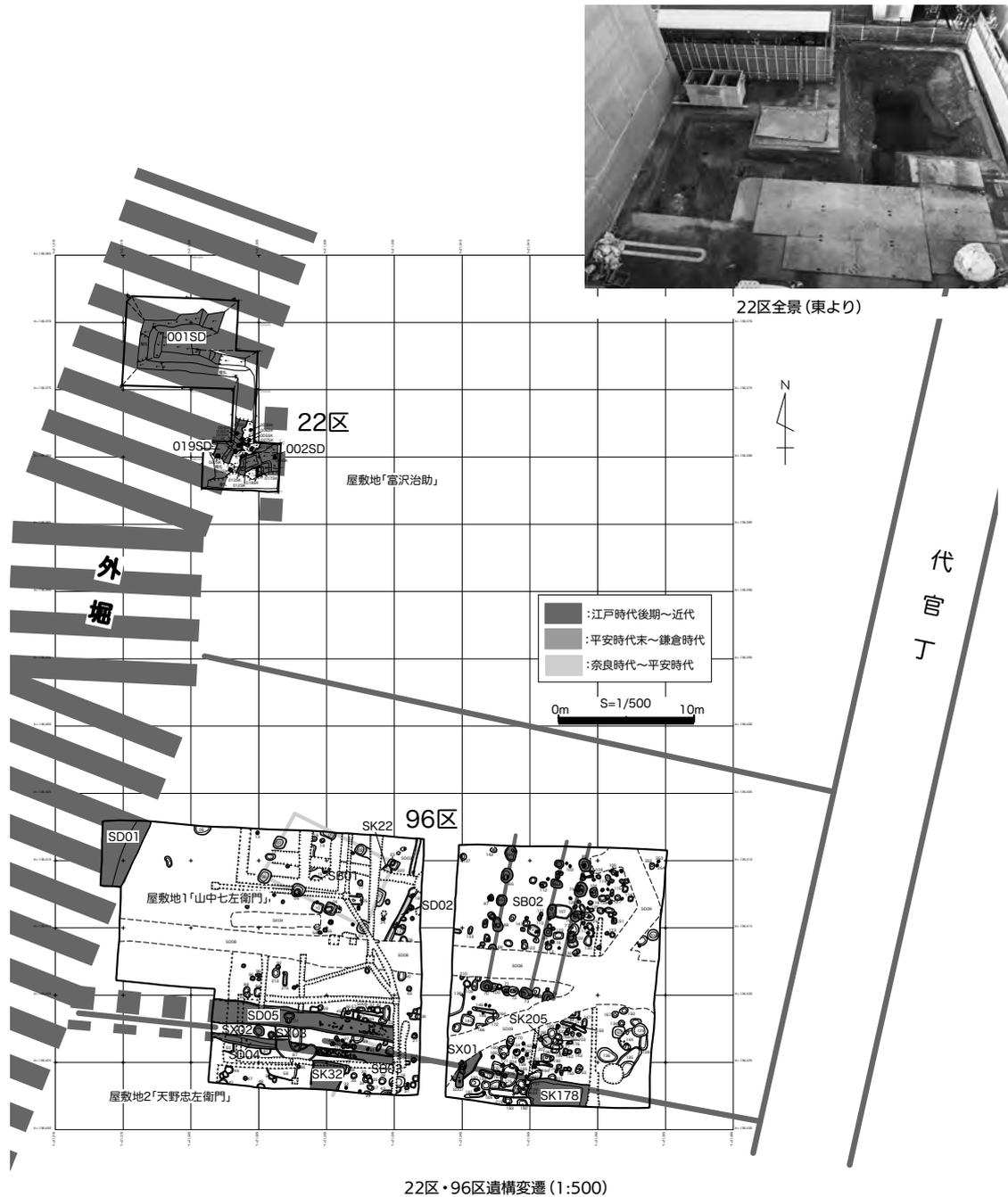
| ふりがな | うちがいつはしいせき | | | | | | | |
|----------------------|---|-------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------------|-------------------------------|-------------|-----------------------|
| 書名 | 内貝津橋遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第229集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 鈴木 恵介・伊藤 茂・加藤 和浩・佐藤 正教・廣田 正史・山形 秀樹・Zaur Lomtadze 小林 克也・竹原弘展 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2025 年 3 月 31 日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| うちがいつはしいせき 内貝津橋遺跡 | きたしたらぐんしたらちょう 北設楽郡設楽町 みつはしあざうちがいつ 三都橋字内貝津 | 23561 | 743002 | 35度 3分 25秒 | 137度 30分 56秒 | 2022.7 ～ 2022.10 | 920 | 道路改築 工事 国道 420号 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 内貝津橋遺跡 | 集落 | 平安時代 ～ 江戸時代 | 掘立柱建物1棟 柵列2列、炉跡1基 土坑、溝 | 弥生土器、灰釉陶器、 山茶碗、古瀬戸陶器、 石器 | | 鍛冶作業に伴う建物跡と内部の土坑から鍛造剥片や粒状滓を検出 | | |
| 文書番号 | 発掘届出 (4埋セ第20号・2022.5.12) 発掘届出 (4文芸第818号・2022.5.27) 終了届・保管証・発見届 (4埋セ第90号・2022.10.29) 鑑定結果通知 (4文芸第1757-2号・2022.11.7) | | | | | | | |
| 要約 | 当貝津川左岸河岸段丘上に立地する古代～近世の集落跡。平安時代の鍛冶作業に伴う掘立柱建物1棟を検出。建物内部には炉跡、鍛造剥片、粒状滓、灰釉陶器を伴う土坑が検出された。周囲の近現代の耕作に伴う耕作土や耕作痕跡からは、灰釉陶器や山茶碗、弥生時代前期の土器、石器が検出された。 当調査区は明治期に耕作地として整備されたことが伝わっており、周囲から搬入された土砂にも遺物が含まれていたと見られる。 | | | | | | | |

第230集 吉田城址・飽海遺跡

本報告は、東三河建設事務所改修工事に際して、事務所の北側駐車場に発電機棟等建設に伴うものである。調査地点は吉田城址の東外堀の東に隣接する地点で、平成8年度に調査した96区の北30mに位置する。

調査の結果、鎌倉時代の柱穴などの遺構と出土遺物は飽海遺跡に関連するものと推定できる。江戸時代の溝は、吉田城址の外堀東肩部と武家屋敷地の排水用水路が推定される。今後、吉田城址の武家屋敷地を考える上で貴重な資料になるものと思われる。

(蔭山誠一)



報告書抄録

| ふりがな | よしだじょうし あくみいせき | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|---------------|-------------------|-------------------|-----------------------------------|------------------------------|------------------------|--|
| 書名 | 吉田城址・飽海遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第230集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 蔭山誠一 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2025年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| よしだじょうし 吉田城址 あくみいせき 飽海遺跡 | とよはししいまほしちょう 豊橋市今橋町6 | 23201 | 790393 | 34度 46分 12秒 | 137度 23分 59秒 | 2022.12.5 ～ 2022.12.22 | 100 | 東三河建設事務所 改修工事 (発電機棟等建設) に伴う発掘調査 |
| | | 23201 | 790394 | | | | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 吉田城址 飽海遺跡 | 城館 集落 | 鎌倉時代・ 江戸時代 | 外堀・柱穴・井戸・ 土坑・溝 | | 山茶碗・小皿・常滑窯 産甕・施釉陶器・磁器 ・打製石鏃 | | 吉田城址の外堀東 に隣接する武家屋敷地 | |
| 文書番号 | 発掘届出(4埋セ第73号・2022.9.26) 通知(4文芸第1545号・2022.10.4) 終了届・発見届・保管証(4埋セ第111号・2022.12.27) 鑑定結果通知(4豊教美第542-2号・2023.1.16) | | | | | | | |
| 要約 | 鎌倉時代の柱穴と考えられる遺構は、飽海遺跡に関連する遺構と推定できる。江戸時代の溝は、吉田城址の外堀東肩部と武家屋敷地の排水用水路が推定される。今後、吉田城址の武家屋敷地を考える上で貴重な資料になるものと思われる | | | | | | | |

